

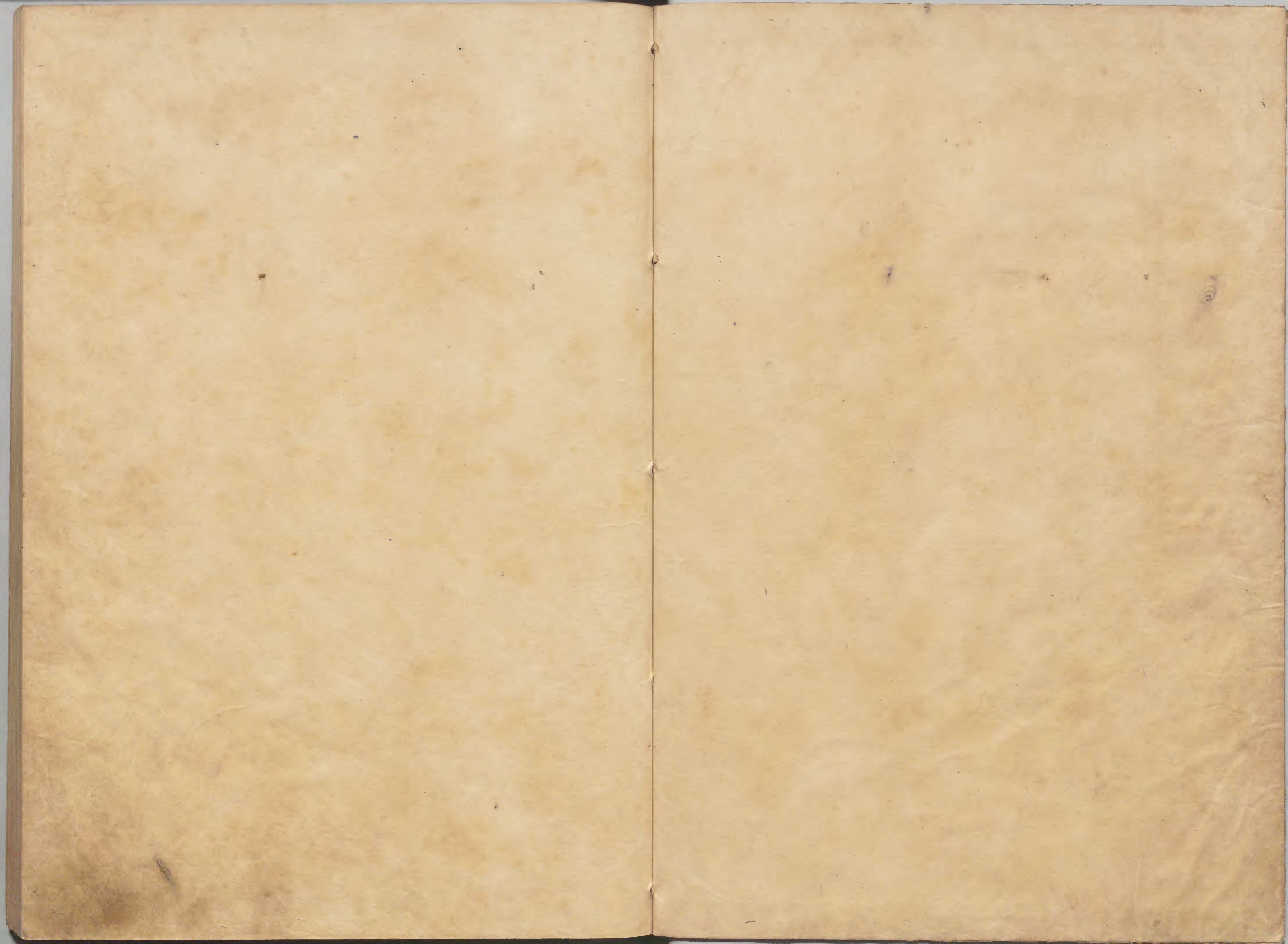
105

寛永諸家譜

藤原氏已四冊之内
利仁流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (105)		
函號	特	76	1





秋友

秋筑

進友

進田

竹田

竹林

寛永諸家系圖

藤原氏

已田 小家

利仁流

秋藤

家傳
後胤
秋藤別當實盛

某

大兵衛尉

淺草文庫

某

伊豆守

利之

内務物

ふりめ之好修理大夫よりきこむを
先手松山新物より一寄一京都白河の
軍事とつむ之好これと懸美と

うのら漢列りともじき舟藤
義新よりつよ義新父山城守道之と
お戦ともき利之軍功ありこらゆ
り小書江の口とさづ
まは稲葉一揆より川口へ職田信長
よりきこむいまこよとひくまむ
つよつよ信長これと感と之因
賜ありうのら明智日向守光秀より
つよ光秀丹波と撃平らき利之

小山乃城小山乃城自小山民被被虜虜を討討

しり

天正十年六月山崎合戦山崎合戦一利之一利之

進進之之入井川乃邊入井川乃邊一利之一利之討討

光秀が山乃手の旗旗下敗敗北北とカケの

ゆへ一利之一利之子基平子基平あらびよ

信濃守と百回百回入十人と率率光秀が

勝勢勝勢寺一入入とカケくともつらむを

おもひしころ一とカケく光秀光秀らむ

もこれと感感どつわいわい光秀光秀一

志志こがみ城城とおくあ後後一わい

得長得長寺院寺院俗俗一之之乃邊乃邊よとひく

一とくお我我その勇勇一ととら

志志く一とれつらむせく白河白河一

いづら四十九四十九歳歳一て死死と 法名

湖蘇湖蘇窓窓西

某

虎松

十一歳引く死に 法衣香岳月光

某

甚平

十九歳引く死に 法名友宗甚

利宗

信波守 淡州安八郡楚保一 生家

一、明智光秀一、尾一丹波一
ととじき波多野と撃時河中一
とひく野く懸彦と絶討一
首とゆら

天正十年光秀有能ると龍衣とき

利宗兄甚平と別引く戦功あり

平子孫傳次信長乃禮と著一抜余の

長刀と持く甚平とわひく

甚平孫傳次と討らるるとき利宗と

又定信基物と陸を合えこれと討
同十二年尾刈小牧討陣乃わひひ
秀吉堀乃進の替へ命へ之樂田と
戸のりしし橋系一決去若川取ら
小川一取し七月二十七日樂田より
小牧よりしふとき一決其期と察し
之わひしし利宗江流大橋系去信と
おがしくるしとせし敵陣より
小澤系と討し

文禄年中約鮮陣乃とき利宗
か藤肥後守清正よりきし海
て左陣と蔚山乃城と攻しとき筑
會合秀秋ハ山乃の大將也清正長曾
家部宮内と船乃乃大おとありし
山乃よりしときしとらしと蔚山よ
い海よりしときし利宗戦功を励
清正これとんと飯納乃とき系地と
くしと

寛永六年四月二十日

將軍家

宋地

河七年

与力十

從入位

酒井

横波

新

御厚恩

川

女子

宋田源

宋

又

小

文

ひ

城乃色入一東とま又昔清との見
とるり之敵乃踏と察一とくその
能乃告と下知一お我事ある度城と
了りりり十日許あり小あこれと感
賞とやりら敵乃番松事あときと
又功ありぬ小あこれと徳美と

之存

与之志束

生玉古代

長曾我部氏一原一他石控告米と
とるに昔後一とむき一却志美津
一とむしと薄別乃告とお戦と
き之存ある度戦功ありそ後加藤
肥後守清正一原一能以とるり
物辨教度乃軍事とつとし漢苗
乃告競事あとき味方乃告我一
衆一とこれと龍歌一とむしと
之存我功ありゆ一と清正これと

貴美と

寛永八年之存今台秀秋一志

こづひ伏見乃城とせめ之戦功

あり

四年冥原台戦乃とき之存の石

掃部と生捕之秀秋一献也

元和元年よりあつた大坂台戦乃

とき之存過孫次景清と討とら

四年二千石乃領地と給ふ

某

同九年御指箇乃頭とあり之

様六十人とあり

寛永二年十二月一死と某

六十六法名道中

白大夫 十二歳より一死と

某

七景 四十歳より一死と

同十一年采地とく之し浦ふ

同十二年十二月晦日従五位下

叙と

同十三年 作おん入りよりく清安卒

乃以なりとるり

同十四年領地とく之し浦ふ

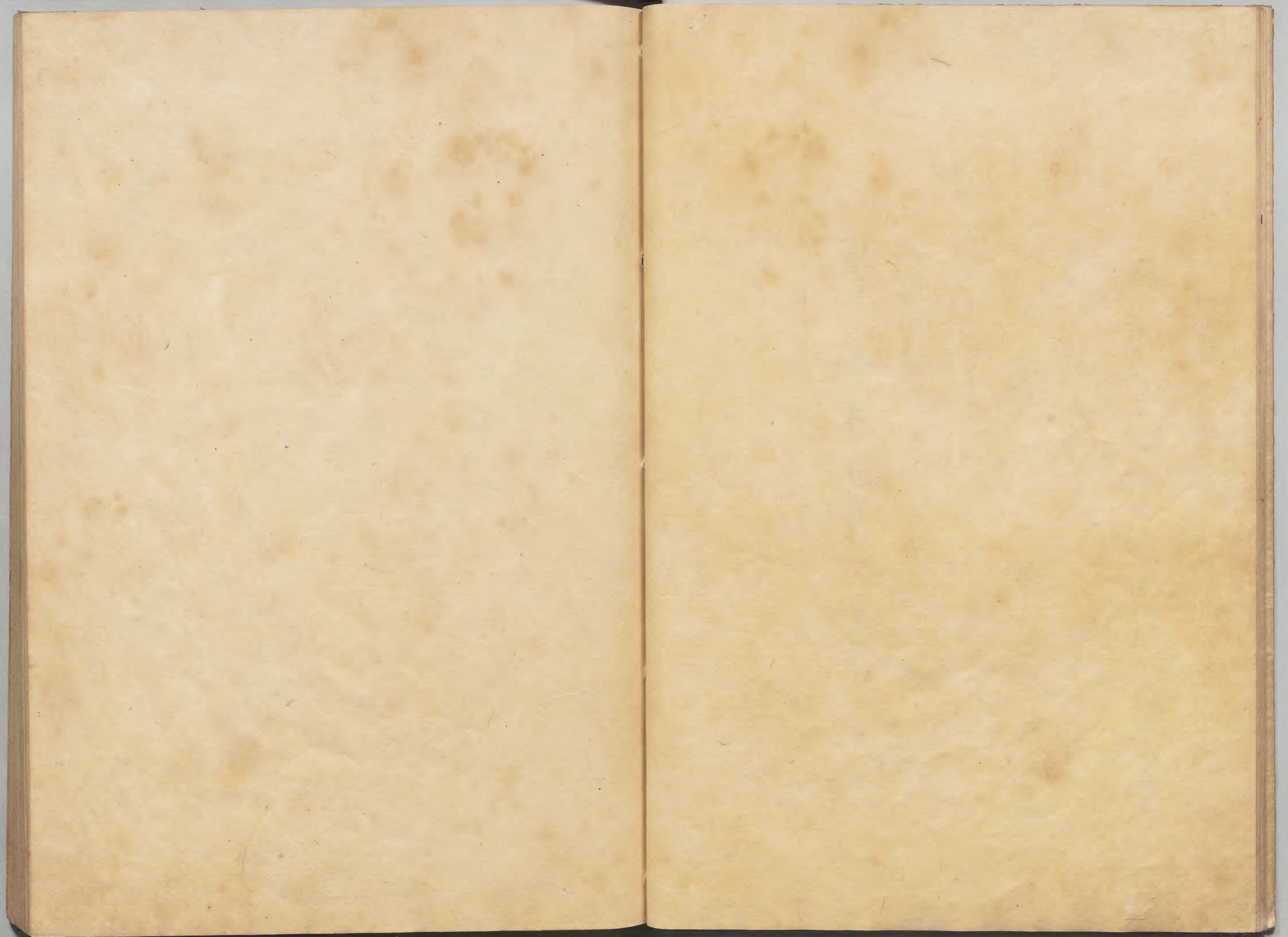
同十六年清小控領乃おん書以なりとるり

同十六年食邑とく之し浦ふ

家紋

明佳麦あけよめ

石置いしおき



赤藤 あかつた

● 利基 りき

伯耆守 伯耆のりき

生玉越中 なまたまのりき

越中 越中のりき 新河郡 新河のりき 地尾 地尾のりき 乃 乃のりき 坂 坂のりき 入 入のりき 居 居のりき 之 之のりき

信利 しんり

次郎 次郎 右衛門尉 右衛門尉 生玉河 生玉河 守 守

地尾乃城より石と

長田信玄信利が許し一使と差

越軍の事とこころしと又

書とわふその詞りいし

来秋の備は一談合中一交修理亮

山内義朝一同勝興瑞泉あらし

以五人所知の旨申述以等略の候

聊に疎さし可涉のあしあし

是波の之候と謹言

六月十一日 信玄書判

母散取

信利頼朝藩よりびり時衣等と

川之織田信玄同信忠より秋とら

事数度より信玄信忠毎度回京と

し通ふそのら信玄よりつと信の

字とこころし信長費しとくらの

東照大権現御書と信利よりし通ふ

その洞ほら入りいんく

其國そのくに涉わた本領ほんりやう事こと新あらた之の名なをを取とりて置おき置けり
其旨そのこころ可よ敷し勸すすめられし功いさをを成なしめりし状あはれし由よし

天正十二年

六月十二日家康涉判

母友次郎右忠の尉友

信利のぶとし善よ喜きと

大権現おほごんげん一いつつつくく海川うみがはるるととくくああまま

涉わた感かんありありくく明ありりくく下したりりくく涉わた書かきとと給たまふふ
ううののららをを割きりりととししめめししまますす

大権現おほごんげん一いつつつくくくくくく戸川とがわのの

天正十六年八月四日城別じやうべつ伏ふ見み介すけのの御ご用よう儀ぎにに依よりり
ししめめらられれしし由よしにに依よりり法は名な目め涼りやう

信吉のぶきち

久右衛門尉

信吉のぶきち一いつつつくく人ひと見み信利のぶとしとと同おなじじ乃の字な

とく浦ふうのらを別よとみく
めされく

大権現より湯一くく川に

右酒院殿よりつくとく浦つる

安長六年一志田津乃とまき

作とうくゆり新田の年行とるる

このとまき敵告城といく東家信者

いゆ

右酒院殿乃浦下知とまきとるるりり

くお浦より酒とわしをを過よ

より信別台書より迂ふるのり

ゆより皮地よ住とる事之年也

のらやいふされく川よとつり

作よりよりく大沙番乃地以とるる

安長十八年一十二歳よりとれを

信正

久右衛門尉 生玉後河

白滝院殿よりつとく平川に

大番乃地以とるなり

寛永十八年大坂津城番とつとあ

ういしとひく孔とみ十兼

信秋

八郎普栄 生玉武苑

寛永十一年

將軍家よりつとく平川に

信清

松左衛門 生玉武苑

寛永十二年

將軍家よりつとく平川に

利次

新八郎 生玉越中

天正十七年

大樽現よりつとく平川に

寛永十年二月二十八日之十二日
一と孔と 法名克月

利治

次郎右衛門 生國該河

実原津からびり 大坂西度乃津

津のとき

大指現より信守とすのころ

名津院殿

將軍家よりつとくつとくつとく

寛永二年七月十九日江戸よとく
孔と峯四十二 法名日級

利政

左源右 生國該河

寛永九年

名津院殿よりつとくつとくつとく

同十年先利次が進跡とす

大坂西度乃津津より信守 合名

とくつとくつとく

寛永十年

將軍家より領地を石とくは給ふ

利安

百九郎

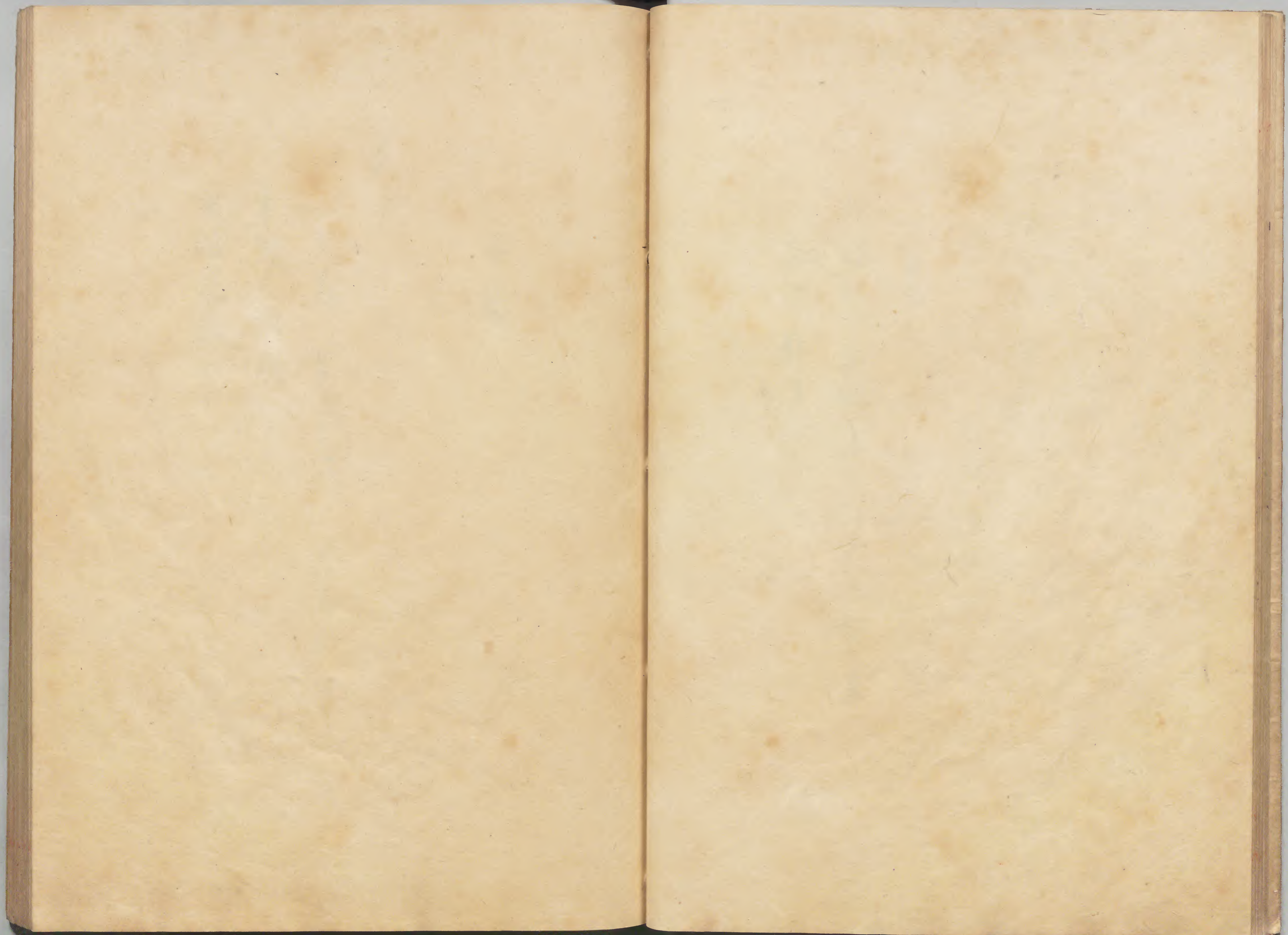
生玉茂隆

二輩より之を利治が家督とす

將軍家よりつゝくは川

家級 横本丸

信清が家級 丸乃以二引 懼麦



新藤

久次

文苑
生田冬河
法名教善

東照大権現

右滝院殿
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

次綱ツギノ

文翁カガ 生玉ナマタマ 武翁ムスシ

實ヨシハ大草オホクサ次郎ジロウ右ミダリ末ノチ子コ有アリ久次キウジ翁オウ

子コとト

右ミダリ酒サケ院ヰン殿テン子コとト子コとト子コとト子コとト

正久マサヒサ

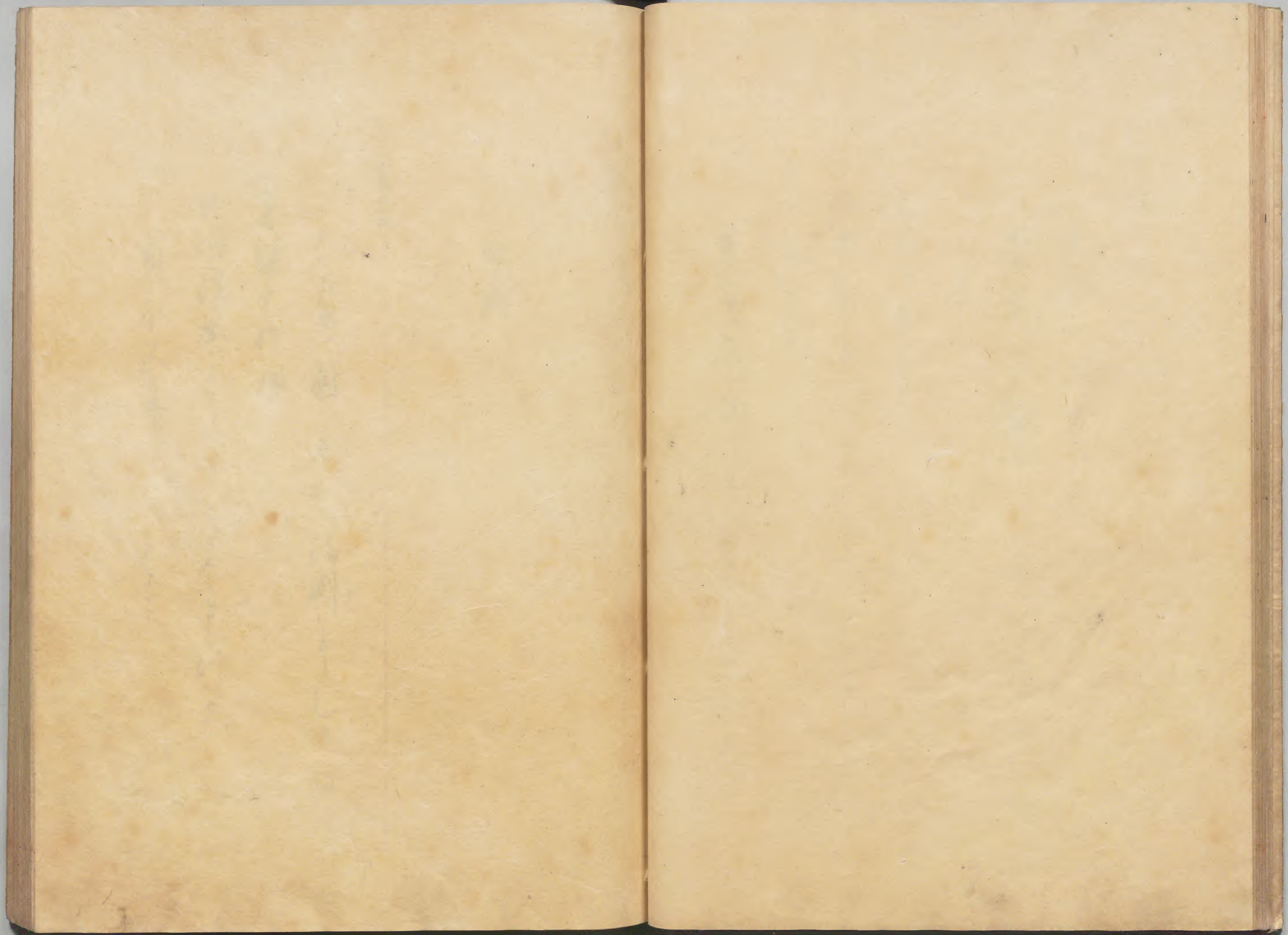
文翁カガ 生玉ナマタマ 武翁ムスシ

實ヨシハ大草オホクサ中ナカ尾ビ末ノチ子コ有アリ久次キウジ翁オウ

子コとト

將軍家シヤンクンカ子コとト子コとト子コとト子コとト

家カ級キウ 下ゲ麻マ



● 室吉

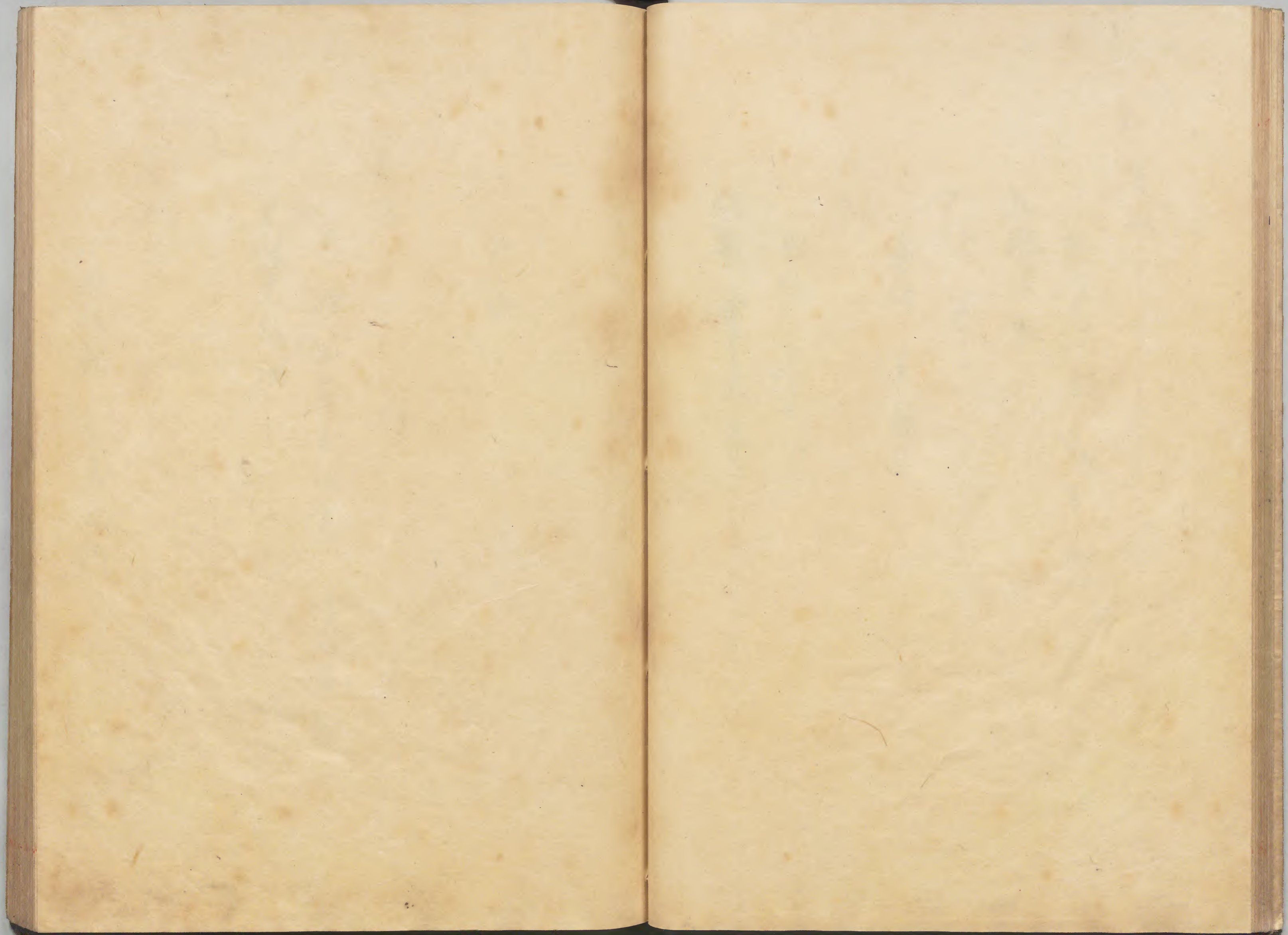
母藤

勘左衛門尉 尾刈清洲

東照大権現

台漣院殿

寛永八年



● 義勝よしかつ

新藤しんとう

平純ひらじゆん

本庄伴豆ほんじやうばんまめ

法名道助ほふなみちすけ

東照大権現とうしょうだいこんげん 一いつつつ人ひと多おほくく戸と川がわ

義次よしかげ

小笠原尉おがさわらゑい

生玉之河なまたまのがわ

右瀧院殿よりつゝくす川

寛永八年六月十八日より

法名一翁

義久

平九郎 生玉武藏

右軍家よりつゝくす川

家紋 下藤丸

吉澄よしずみ

平藤 生玉河

吉包よしづか

平左衛門尉 尾別おび清剛きよたかよむ戸と保
織田おだ信長のぶながよりよ

新藤しんとう

東照大権現トクトクトクトク

吉勝ヨシカト

長尾忠つ尉チカオ 且列ナカ之勝ノカトトクトク

右酒院殿

右軍家トクトクトクトク

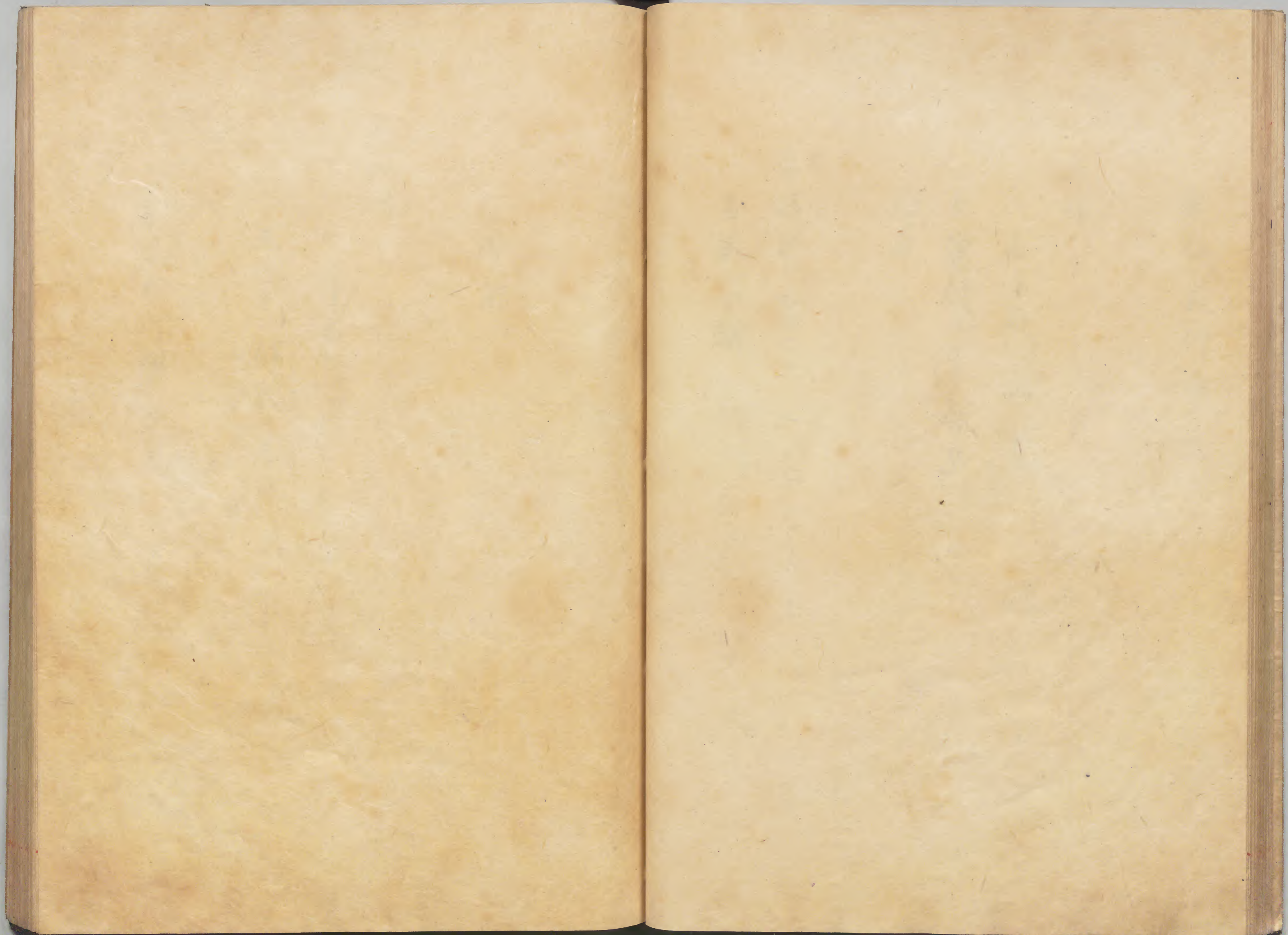
吉之ヨシノ

忠之郎チカノヲ 武列タケナカトクトクトク

右酒院殿

右軍家トクトクトクトク

家紋 下藤丸シモフジノマル



政勝

新藤

六郎右衛門尉

生玉尾張

聖別 濱松

孔

東照大権現

改忠

宗象

孝印

大権現

白滝院殿

安永十二年六月十二日

六十九歳

初乃名々全茂 生玉

改吉

全吉郎 生玉河家

安永十二年十二月十日

大権現

白滝院殿

將軍家

忠勝

忠次郎 生玉河家

元和六年十一月

將軍家よりつとくくす川河

寛永十年六月 作よりより

小十人の地所とる

家紋

徳川

徳川

● 集

母藤

宗林 生玉尾張

東照大権現よりつゝ一々之戸川
元龜三年を別之方原合戦
討死

某

孫之郎

生玉彦

大指現一

政則

孫若末尉

生玉河

大指現

白酒院殿

將軍家

寛永十二年六月十二日

孔

政刑

之右末尉

生玉彦

叔父政則

辰巳孫右末尉政直

元和九年

將軍家一ツノ多ク戸川

實父政直 生玉大和

宗源院殿一ツノ多ク戸川

寛永十一年ノ死ト六十九歳

家級 園心一ツノ 豐佳

● 信定

横井河内 生玉甲斐
武田信虎

赤藤

本名横井氏より幸保より
赤藤と稱す

信忠 しんちゆう

攝津安藝 せつしんあまき

武田信玄 たけだのぶげん

天正十年

東照大権現甲別湯入玉乃とき

とらふ

右酒院殿 みぎのさかべ

幸保 さいほ

善右衛門尉 ぜんゑもんゑい

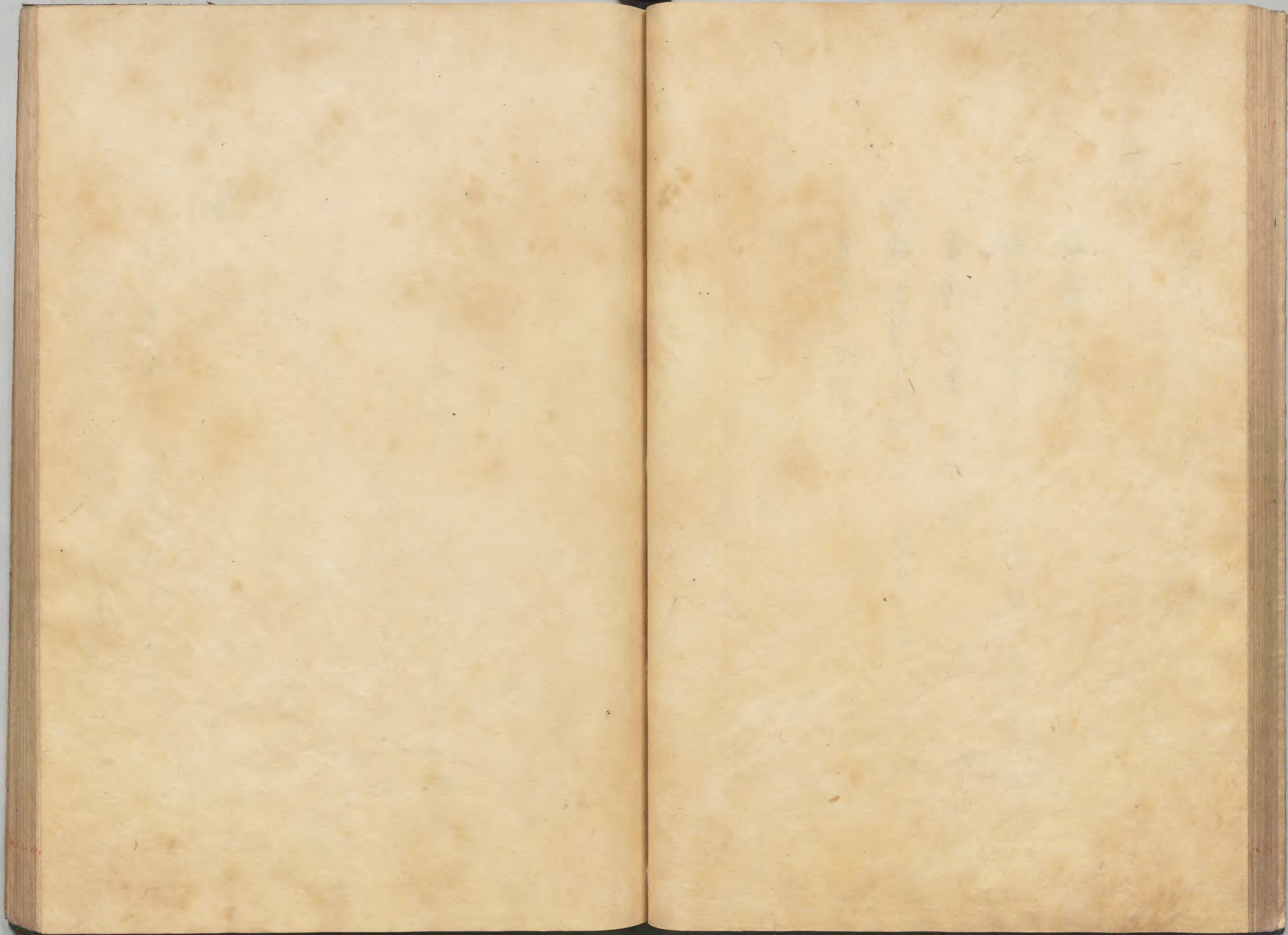
お軍家 おぐんけ

幸保病者 さいほびやう

橋井 はしがい

母 はは

家 いへ



長鑑 ながみ

左衛門尉

長政 ながまさ

貞長 さだなが

左衛門尉

長鑑 ながみ

氏鑑 うぢみ

長政 ながまさ

貞長 さだなが 長政 ながまさ

高長 たかね

長政 ながまさ

左衛門尉

長政 ながまさ

河内 長海郡 松下 かみのながみ ながみ

長政 ながまさ

長信 ながのぶ

源左衛門尉

國長 くになが

長守 ながもり

國經くにのり

源六郎

長範ながのり

源六郎

為雲なりくも

源六郎

秀經ひでなる

源六郎

利仁の末孫於筑前宗助秀宗の長男

の人也のらし川氏真一房一と

を別よう川一秀經とわ一あひと

子と一家督とつが一むこりゆと

松下とわとつとめと一筑前と号一源

姓とわとつとめと一藤原と称と

永祿十二年

東照大権現を別湯入玉乃とす
書これあり

元龜元年江州婿川吉我乃時
武田之累年乃我あり

安永六年七月廿七日

第六十八 法名成全

為政

元龜元年

為政十八年

大権現

漢松

同八年十二月十七日孔と兼六十八
法名全全

为次

冻左歩尉

寛永十七年

有酒院尉と并

为基

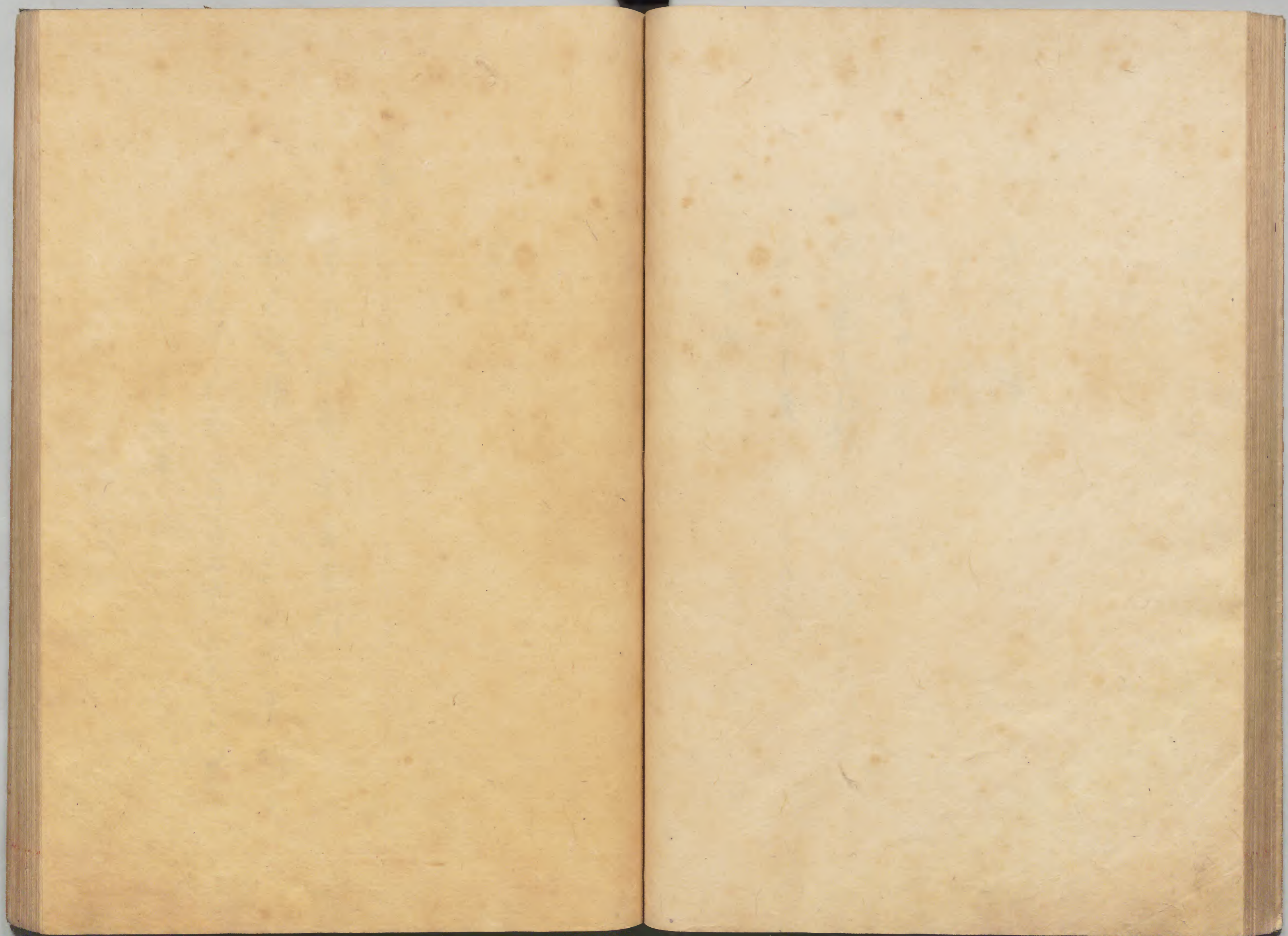
冻十郎

寛永十年

將軍家へ

家紋

鞆



初筑

● 吉久

市^{いち}右^{みぎ}東^{ひがし}の^の尉^{ゑい} 生^{なま}玉^{たま}登^{のぼ}河^が

東照大権現^{とうしょうだいこんげん}の^の一^{いち}つ^つく^く戸^こ川^{がわ}

寛永十^{かんえいじゅう}五^ご年^{ねん}一^{いち}月^{げつ}二^に十^{じゅう}日^{にち}既^{すで}正^{ただ}年^{ねん}

六^む十^{じゅう}九^く 法^ほ名^{めい}淨^{じやう}忠^{ちゆう}

法久ほうきゅう

平左衛門尉 生國河原

實と初筑之の物政者が子あり者久
やいさひのこ

寛永十三年十一月十三日死と葬

六十六 法名はあ

宗次むねつぐ

市右衛門尉 生國河原

右衛門殿より

寛永十五年八月と葬六十一

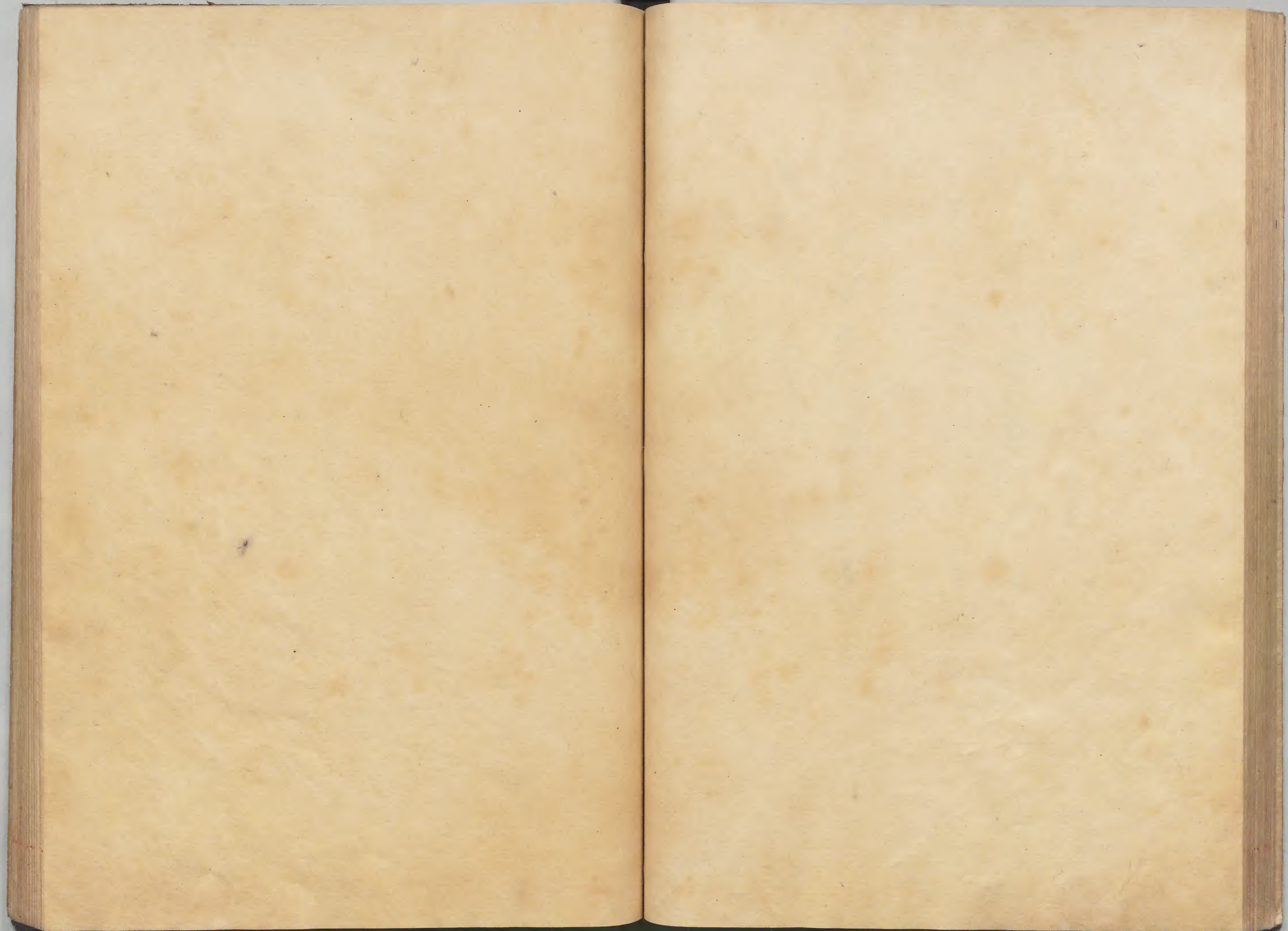
宗次むねつぐ

百子代 生國河原

則久すねひさ

平藏 生國河原

將軍家より



● 正勝まさかつ

幼執わらわし

小之郎このおのら 牛玉うしぎ 冬河ふゆがわ
清康きよかみ 志し 一ひと つつ 久ひさ

正友まさとも

大郎おほら 次郎つぎら 牛國うしくに 河がわ

廣忠卿よつよ戸川り某乃場
しよひく討死場処分ゆきく

正秋

孫十郎 生玉河

東照大権現よりつとくつとくつ

天正十二年尾羽長久手合戦の

とき討死

正重

普普衆

生玉河

慶長二年

大権現よりつとくつとくつ

同六年小山原両津ありびよ

大坂の度乃津津よみか徳奉と

川とむ

大権現豊洲のら

一、新築正重と重

都筑

● 勝吉

又普清尉

生玉彦河

廣忠卿ひろちか 一いつつつふふ戸と川がりりそらら

東照大権現とうしょうよよつつふふくくくく戸と川がりり

大権現たいけんげんそそのの片かた秀ひで吉よしとと合あ戦いくさ乃のとときき勝かつ吉よし

右功みぎこうととつつとと一いつつつふふくくくく戸と川がりりとときき春はる州しゅう山さん奴ぬ田た

大指現一^{こい}并^{あろ}湯一^{こい}く^{あろ}川^{あろ}の^{あろ}後

白^{あろ}院^{あろ}殿

将^{あろ}軍^{あろ}家^{あろ}一^{あろ}つ^{あろ}ふ^{あろ}川^{あろ}の^{あろ}父^{あろ}勝^{あろ}時^{あろ}が^{あろ}送^{あろ}跡^{あろ}と

川^{あろ}の^{あろ}清^{あろ}殿^{あろ}主^{あろ}乃^{あろ}番^{あろ}と^{あろ}川^{あろ}と^{あろ}し

家^{あろ}紋^{あろ} 七^{あろ}曜^{あろ}

初流

政武

又右衛門尉 生玉冬河

安長九年

台酒院よりあつた孔之大湯番とつとむ

元和七年湯枝持方と支配とつとむ

奉新とつとむ

寛永二年六六 元と兼四十一 法名
宗宗五九

改成三六

又右忠三六 生玉茂三六

寛永九年七三

將軍家三六 一三六 一三六 一三六 一三六 一三六

家紋

卍字

● 集

幼筑

ふとめを松平氏より政者として
之をうけて幼筑と称す

松平代渡 生玉冬河 法祈して極宗と
号す

东照大権現よりつくりし川

家紋

沢さわ写が

● 秀次

志村孫五郎

志村濱松

生家

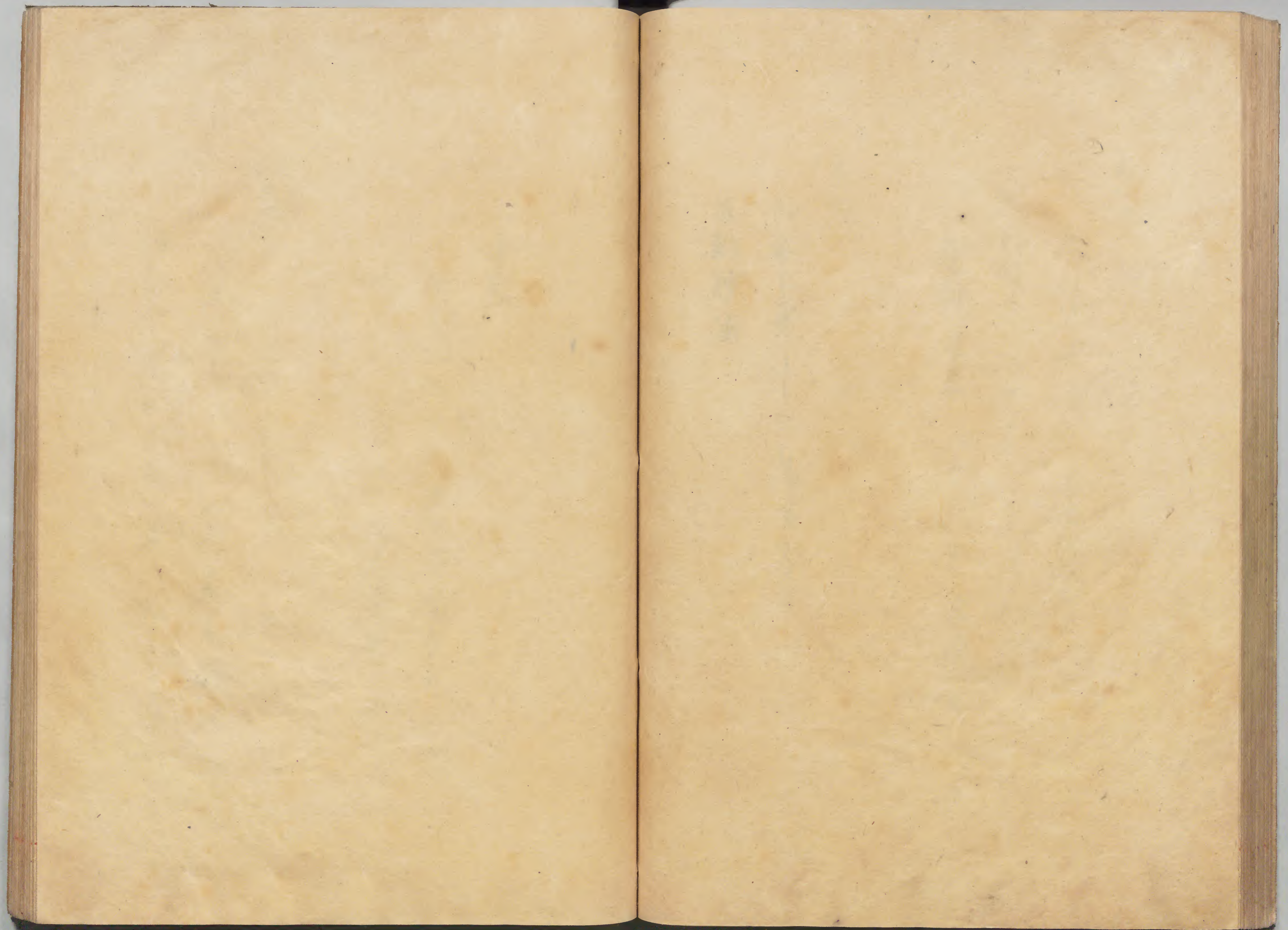
東照大権現よりつとくつとくつとく

元龜之年元龜之方原吉就乃とす討死

幼流

いづれも志村氏也秀勝よといふ

わゝゝゝゝ幼流と号す



● 政直

し初兵庫 ころめ乃名を源次郎
伴勢安流初志布美の城一居

進藤

本し初氏源頼政が苗裔なりと傳
稱どののらわくくま敷と号す

源次郎 生玉河あ

織田信長乃叔母とありとるわるとま

信長の命入りてじくわつゆへ

織田と野分ひそくに源次郎と稱げら

し源氏とわらめと名取と稱げら

ありこれ信長乃思ふとるまをわ

まへるあり

正次

之右衛門尉 生玉河あ

宇部多中納言秀家より

受書元年実原一戦のころ

東照大権現正次とありて秀家が事と

とせ給ふ正次とありていふく没落

のころありていふとて目より

ゆゑありていふとていふとて

作有けるハ秀家ハ敵なりといへども
正次ハ君臣乃君臣故とつて正次も
この地家ハ一属とこいふとせられ
とす移くべしと乃るはゆふこりゆふよ
魔下り一属とこいふべし
百両とゆふこりゆふよ秀家平生所
乃りきこりゆふよ
正次作とつてゆふよ流別関原乃色
一ゆふよこりゆふよ

大権現一とつてゆふよのち秀家

流浪一とつて薩摩玉よりつこりゆふよ

本多と野分酒山と共清射とつて正次

り秀家一とつてゆふよ

秀家乃一とつて関原乃色一とつてゆふよ

正次乃一とつてゆふよ

昨日なりとつて先回正次が云と正次

とつてあつてゆふよのち秀家

正次が云茶符合せとつてゆふよ

大権現正次たごんげん しょうじが右みぎと感かんしつ

慶長十七年七月四十九日けicho 17 7 49奉ほうじ

孔くわんと 法名ほつな月定げつぢやう普照ふしやう

正成しょうじやう

之存このぞん忠ちゆう 生玉なまたま田たにあ

駿府すまのふよりよりとといいふふ

大権現たごんげんよりより祚そん賜たふししののらら 作つくととうう

物ものりりとと

白瀧院しらくわん殿のりよりよりつつとといいふふ

正忠しょうちゆう

九く存ぞん忠ちゆうのの尉ゑい 袴はかま列りよりよりむむすすふふ

安永十八年十月あんえい 18 10之の業ごう乃のととまますす

白瀧院しらくわん殿のりよりより謁ごうししとといいふふ

寛永二年かんえい 2涉せつ中ちゆう院いん番ばんとといいふふ

同九年どう 9よりより

將軍家しやうぐんよりよりつつとといいふふ

継乃番と川とむ

家紋 三引

くしめし社氏乃時矢筈と引く紋とむ
のら名敷と稱してよりこれとあはさむ

某

正回

嘉^き原^{はら}と号^{ごう}と
牛^{うし}玉^{たま}冬^{ふゆ}河^{がわ}

廣^{ひろ}忠^{ちゆう}郷^{きやう}
一^{いち}つ^つふ^ふ戸^こ川^{がわ}

某

嘉^き原^{はら}と尉^ゐ
牛^{うし}玉^{たま}河^{がわ}

● 守種

石居忠久

生國河原

竹田

守次

物古忠久

生國河原

石居忠久
武田信玄同僚
頼朝一ツ子

其後

東照大権現甲別新府へ湯あるの
とき菅田忠孝の信が家人とありと
わらせ忠孝と川をさしゆへ
めされ

大権現よりつらつら川へ

寛永八年一関原陣乃とき大久保
お授守忠孝が地へ居へ信を
川とむ

大坂あゆ陣よ本多信俊守正信へ
居へ信を

寛永十一年八月二日七十人衆よ
へ信を

守明

勅大衆の 生かす

右酒院殿

將軍家よりつらつら川へ

家紋
升の
折り

● 政次

竹田

隼人 生玉正江

織田信長より

天文亦之年より

法名正春

政長

助左衛門 生玉河

信長

寛永十三年二月十日八十六歳

少左衛門 法名通玄

政忠

六郎左衛門 生玉河

寛永六年

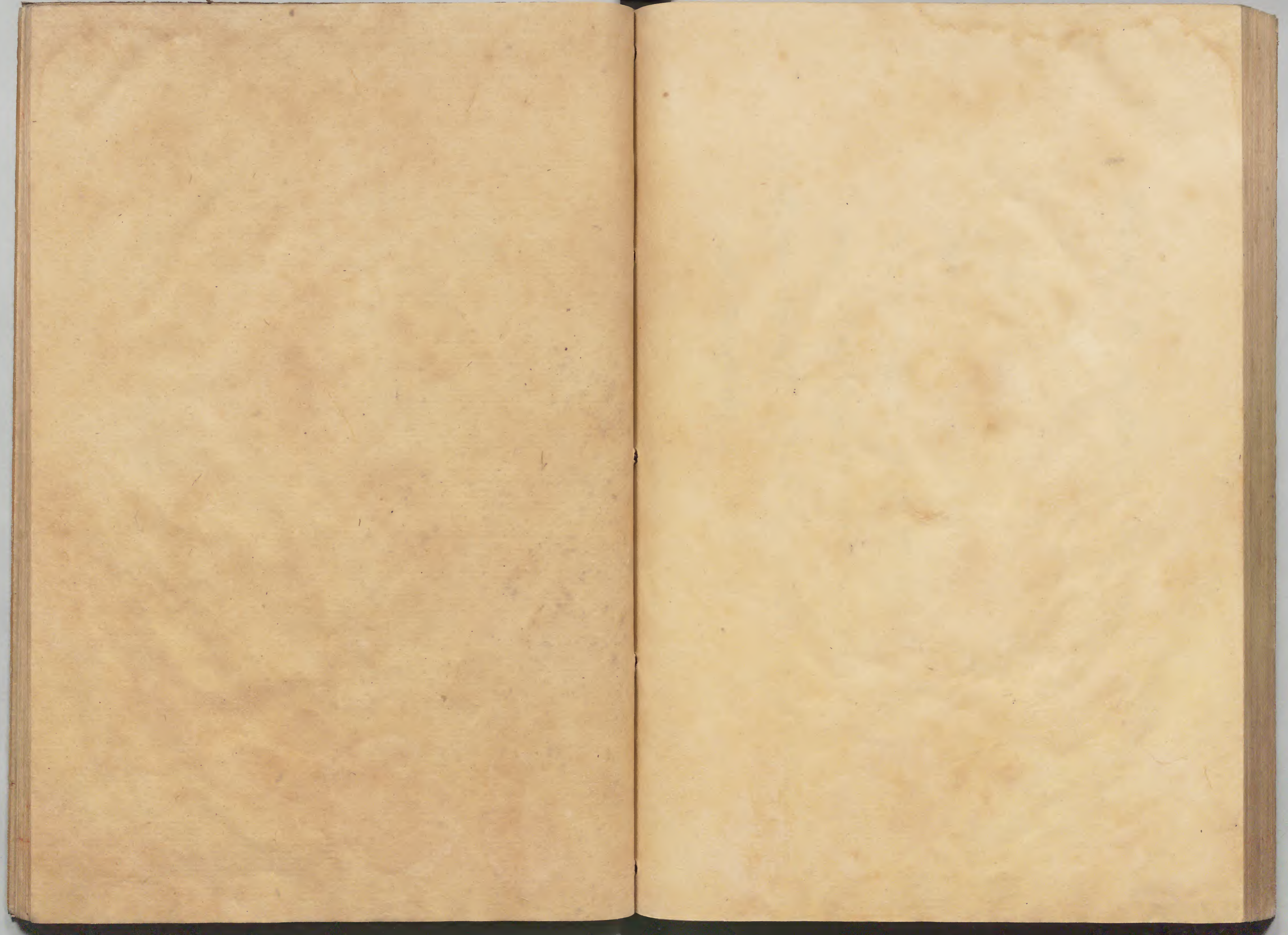
將軍家酒井雅宗以右世酒井横濱守左衛門

善山大藏少輔章成 命一之

いづる政忠は美濃郡八藏が甥

いづる

家紋 桐菊 替紋 上藤の丸



正勝しやうしやう

林はやし

又之郎

又右邊みぎのへ尉ゑい

生なま玉たま紀き別べつ

吉勝きちやう

又之郎

右邊みぎのへ

生なま玉たま紀き別べつ

四よ歲さい少せう之の又また之の紀き別べつ

信時

持別大坂よりいづれを後京都より
事之居位と別髪一之理母と号と
元和元年正月廿九日死と年七十二

孫一郎 孫次大坂 生玉河

二歳乃時母と河トク吉勝よと

がひく別より大坂よりいづれを

京都よとりじまきと居位と別髪

志之林入と号と

寛永六年六月十六日死と年

八十三

信澄

孫一郎 生玉山城京都

別髪一之永喜と号と

幼年より字とこり之又倭歌の

道よりと号と

寛文十一年

東照大権現の御より

左酒院殿と注し

永喜亦四歳

同十七年永喜江戸へ伺作と

時よ二十八歳

左酒院殿茂別尾菅村少く八百又

十石の采地と一酒先より田

涉おにゆりて顧問よりわたり

又祈牒の事われど常はこれな
わづらう法中方の祈禱等これ
阿る時毎度これと沙汰と
元和二年

大権現蕘沖の時永喜菊光の房悟正

天海と因ドく 仰と仰りて

京都小いより 祈禱の事とけり

菊亭右府晴季よりおわらう

つねに奏聞と仰りて 旨と請て

江戸入り久し

寛永三年

白瀧院殿

將軍家湯上湯九月二条の城より行幸

のとき永喜田、當中にありて
年老病弱延乃片と法事と評議
しるごとく永喜志ごとくこれを

わびしうきく

同六年十二月晦日

勅命に依る

刑部卿法中に叙と

同七年十二月

白瀧院殿湯不例のしうき永喜田

湯前り例作と

同年食禄之百俵とくと湯前

同九年正月廿四日

白瀧院殿湯前湯前上寺少く湯前

ありしとき永喜これよおとむく

湯前年忌乃とびとり

湯廟前湯の作作と

同十年

將軍家の作作よりより之を定地定地と改改

古本古本乃料乃料とて海海ふ

同十六年六月永喜永喜中風中風の病病に

こつて八月十九日つおよ卒卒と

歳歳六十

女子

信貞信貞

孫一郎 京初京初の生家生家

寛永七年六月十九日寛永世世二十一歳

信次信次

孫平次 生家生家のあ

判發判發一と永南永南と号号と

寛永十六年十二月朔日永長永長の家

督督とつとく

將軍家と辨辨一と家家

四月十二日評定場より申上りて云葉
の事におかしく

信勝

又之郎 道春 京都よ生家

實ハ信時が長男なり誕生のよりより

理承にや—おられくも家をつぐ

安永十年信勝亦之歳の時 百一

歳—く二条北城よりひくくして

東照大権現より賜—を蒙る

同十一年亦同歳より—武外御下よ

とめしき

名瀬院殿と称—く戸川

同十二年信勝亦六歳のとき

大権現の御りより—く判發—く

道春と号し是より—後府よ在位—

つねよ湯前—何作—て倭漢の群

書よ—先より—き定地毎に七

木乃料とこ酒ふすのち江戸よ
とむじきこく

台徳院殿の御前よとひく之略と御
一聖年又漢書とよむ

同十八年

大権現の御よよりく本ぬと野介正純
書と大明福建道の都督陳子良よ
つうと時道春 御前よをひく先
と草と

同十六年

大権現御入浴の時詔大臣 伯よよりて
誓紙と献と道春清原介記秀賢
おとよひと条目とつくふ

同年京都の近邊よりく采地を
うりり別によ年給と給りく
駿府在位の料とよ

同十九年乃ち大坂御陣よ修奉
元和二年

大権現（こうげん）豊沛（ほうはい）の後江戸より来り又
右徳院殿と稱し奉侍

同四年江戸より定地と相領と
先より江戸京都のありし時
付来と

同七年通春を京内時 勅し
新刊皇朝類苑一部とす海ふ又
沛本一部の誤字と改朱院句讀と
初よりんごころと先と秋と

中院通村卿阿野實顯卿これと
奏と

寛永元年四月十一日

右徳院殿の作より

將軍家より
沛あよりおれと福信貞觀政要
等乃詔書と海と先より先
牒祈云案の事にあつしと書
すの廳よりおれと

同之年六月 勅命よ依て孫子
之略の讀解とるるび又大學等に
經書乃要語とぬき倭字抄との
くこれと歎と

同一年八月沖と海の邊

同六年十二月 作とるる物と
民部卿法中叙と

同七年九月 帝即位の時酒井兼光
古井大炊頭とまゝとるる禁違

りり 宸儀と祥とそ乃記録
あふびと繪圖と決りて江戸よ
出りてこれ成

あ所よ歎と

同年の者江戸の城外少くも同
の地とすりり又黄金二百あり
并歎と

同九年二月

右 徳院殿 勅賜 院号の事よ依て

道春沙使とくくし海と

同年会禄六百俵とくくし海と

比内之百俵ハ先年とてていふれと

神領とを介修時の恩賜おし

同十年七月十七日 左駕东殿山

より 還沛の時道春が家塾より

渡沛ありて先聖殿と沙汰し

信に依く当書の竟典と海に時よ

白浪六十枚神領と永長と又時服

とく海と

同十一年忠長郷乃旧館の均大厦

一字ありびし厨所と大戸ありと

これと家塾よりつと

同年月光山乃年中の事毎に

増上寺乃年中の事と経書志

之西度と秋とと毎度 沛前よ

とふく沛服と神領と永長と家

とくこれと以載と

同年七月沙上浴の信年十八日沙
糸内通春 信とくし物りく沙糸
内日記ありびよ沙入浴の記と決る
同十二年四月武家門法度十九ヶ
條評定の時通春永表これ大草
業と

同十三年四月日光山の沙廟沙
造替成就の時

將軍家沙糸禰の信年通春 信と

之けくしりく新廟の記と撰ど
同年十二月物辭の信使奉物の時
之沙也簡るくびよ別楊 信と
之物りてこれと草と

同十七年四月

大指現二十六年忌の時

將軍家日光 沙堂山通春信年 信と
依く之記とつくふ

同十八年二月七日諸家系圖の事

太田備中守奉^ぶ行^{ぎょう}として道^{みち}去^さるは
くもろりも^も氏の^し新^{あらた}旧^{ふる}其^{その}仍^{なほ}とわ
らあたら^らる^る一^{いっ}と^と詞^{ことば}と^とえ^えら^らる^るび^びこ^こら^らる^る
一^{いっ}ま^まの^の仕^しわり

同年八月十七日 為^な命^{のみこと}と^とり^り方^{かた}と
本^{ほん}朝^{てう}神^{しん}代^{だい}の^の系^{けい}圖^と王^{わう}代^{だい}の^の大^{だい}事^じ記^き歴^{れき}
代^{だい}氏^し將^{しょう}の^の譜^ふを^をび^びり^り中^{ちゆう}華^か帝^{てい}王^{わう}此^{こゝ}
譜^ふと^と撰^{せん}集^{じつ}と

同年九月二日

竹千代君と祥
將軍家と賀

同二十年七月朝鮮の信使来朝
一と國王乃書簡と
將軍家と秋と又別幅と

竹千代君と秋と一乃乃のひが道春
三とく 涉前
皮虫の書簡とよみ涉返簡と
びり目録乃ととじま

仲とくはけし戸りく是と草と
又年光年川乃此書九通されと
他と

叔勝

左門 生玉 駿府

母と慈川氏

叔勝四歳の時母よまろくこのて駿府より
京都にまじりて成長するにまじり

て六乃らるく書とよみ家におさ
し子下の群書と涉獵してまじり
倦事か

寛永六年十月叔勝父とあつり
刃んがくあけ戸よまろく父よ代と
諾生乃とあけ書と録と

同六年六月十九日叔勝江戸より
没と時よ年十七

長女

母ハよハ河ト一京都ヨ生カ
又兼少ク半世

春勝

又三郎一 生玉河カ
母ハよハ河ト一

八歳の時より叔勝よつづく書とて
寛永十年十月又一より
江戸ヨ事ト別髪一々春勝ヨ

号と

四年十一月朔日

將軍家と稱一 在る時ヨ長女十七

歳

四十二年二月丁日と野ノ先程殿
少く釋菜の時禱詔の首章一を
稱と

四十八年十二月より一永南と
ある一評定乃席一に出仕と

同十八年二月徳家系圖傳撰集乃
しき道長よきしむく太田御中守
資宗に乞ふ事にあつし
しるし聖年系圖と配ふて
編修しし時資宗清和源氏とあり
長母に附しし竹藤原平家并に
徳氏等し又同事あれど毎事先
と評儀と

同二十年七月朝鮮の信使通政大夫

守勝

尹頌之通訓大夫趙綱通訓大夫申
濡奉聘の時長母守勝とてかひく
宗對馬守義成が宅より行くと使よ
會し即席に唱和し他日又贈答
ありけしむきしむく太田御中守
朴安副詩あり春母守勝約句乃
贈答ありしむくあり

右近 母ハよ同し 京都よ生家

幼齡の時より書とよし

寛永十一年十月父よきこころ

江戸にありしとき父よきこころ

戸と

女子

母よに曰ド

生母曰前

家紋 松葉 式々 桜葉

